

環境経営レポート

2020年度

(2020年1月から12月)

作成 2021年1月18日

改訂 2021年3月10日

東邦化成株式会社

目 次

1. 組織の概要	1
(1) 事業所名及び代表者名	1
(2) 所在地	1
(3) 環境管理責任者氏名・担当者連絡先	1
(4) 法人設立年月日	1
(5) 事業活動の概要	1
(6) 事業の規模	1
(7) 組織図	2
2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	2
3. 環境方針	3
4. 環境目標・環境目標の実績	4
5. 環境活動計画と取組実績	5
6. 環境活動計画に基づき実施した取組内容	6
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組計画	7
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	
並びに違反、訴訟等の有無	8
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	9

1. 組織の概要等

(1) 事業所名及び代表者名

東邦化成株式会社

代表取締役 磯 部 進

(2) 所在地

■本社 東京都台東区日本堤2丁目38番1号（平成22年認証登録）

■倉庫 東京都台東区日本堤2丁目18番5号（平成22年認証登録、登記上はこちらが本社）

(3) 環境管理責任者氏名・担当者連絡先

環境管理責任者 東條賢司

担当者 糸賀あゆみ

連絡先 電話 03-3872-5111 FAX. 03-3871-5623 e-mail: eigyou@tohokasei.jp

(4) 法人設立年月日

平成29年11月21日 東邦化成株式会社（現東邦株式会社）より会社分割により設立

(5) 事業活動の概要

化学製品（塗料、溶剤、接着剤、消火器、合成樹脂等）
及び関連機器の卸売

本社； ・製品の管理、営業

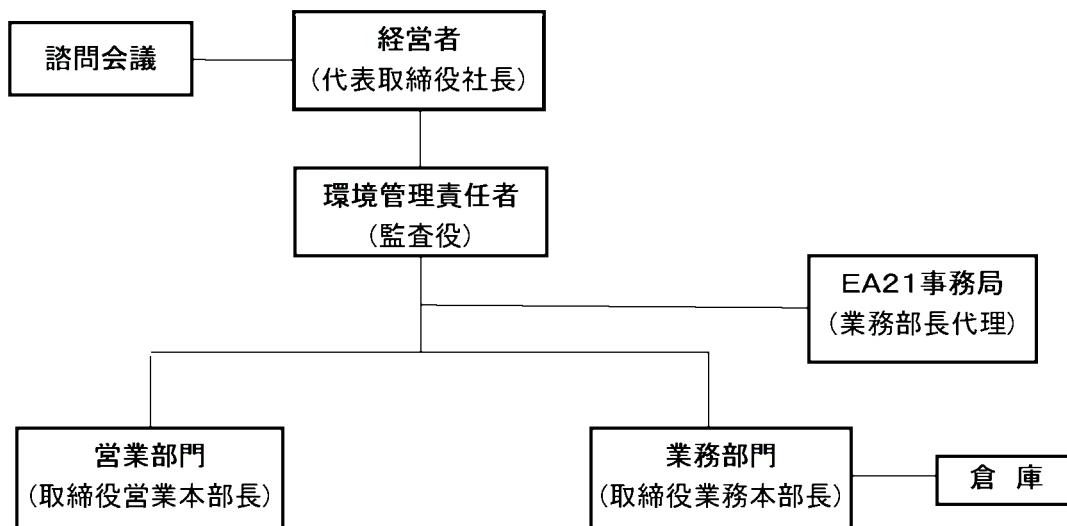
・製品の運搬、梱包、出荷

倉庫； ・製品の管理、運搬、梱包、出荷

(6) 事業の規模

事業規模	単位	2019 年度	2020 年度
資本金	万円	5,000	5,000
売上高	千万円	165	162
従業員数	人	20	20
床面積(本社)敷地／延べ床面積	m ²	188.73/407.95	188.73/407.95
床面積(倉庫)敷地／延べ床面積	m ²	89.69/146	89.69/146
車両	台	8	8

(7) 組織図



役職	責任および権限
代表取締役社長	1. 環境管理責任者の任命 2. 役割・責任及び権限を定め、全従業員に周知 3. 環境方針の制定 4. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 5. 環境経営システムの定期的見直しの実施 6. 経営における課題とチャンス进行明確化する 7. 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 諮問機関である環境委員会の委員長として委員会の運営 4. 推進機関であるEA21EMSの事務局の責任者として事務局運営 5. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施する 6. 環境関連法規の遵守確認
諮問会議	1. 経営者からの依頼で全般に渡りアドバイスをする
EA21事務局	1. 環境負荷と環境への取組状況の把握 2. 環境関連法規等のまとめ 3. 環境関連文書及び記録の作成・整理 4. 環境管理責任者の補佐
部門責任者	1. 自部門で下記を実施 (1)環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的に改善する (2)従業員へ教育・訓練を行う (3)環境上の緊急事態への準備と対応

対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

- (1) 対象範囲：全社
- (2) 対象組織は「1. (2) 所在地」欄に記載
- (3) 対象活動は「1. (5) 事業活動の概要」欄に記載
- (4) レポートの対象期間及び発行日：表紙に記載

3. 環境経営方針

《基本理念》

東邦化成株式会社は、経営理念である「おもいやる」ことを従業員、その家族だけでなく、すべての取引先、更には社会に生かして行きます。事業活動のあらゆる局面で、環境負荷の継続的な改善を行い、関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守し、地球環境の保全への取組みを進めます。

《スローガン》

私たちは地球にやさしい仕事をします。

《基本方針》

1. 環境経営改善への継続的取組みと配慮

環境経営に関する次の事項に目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境経営改善に取り組めます。

①資源・エネルギーの効率的利用によるCO₂排出量の削減

資源・エネルギーの消費状況をチェックし、環境への負荷を常に認識し、車両、空調設備等の効率的な運用により、二酸化炭素の排出量削減に取り組めます。

②廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量を削減します。また、廃棄物の分別を徹底し、再使用、再利用を促進します。

③上水道使用量の削減

元栓と水流を制御し、節約を推進します。

④化学物質貯蔵量の削減

最適在庫を管理し、PRTR該当物質の削減に取り組めます。

⑤グリーン購入に取り組めます。

エコ商品の調査と購入を推進します。

⑥環境配慮型商品の拡販に努めます。

環境に配慮した商品設計、開発を推進し、PRTR非該当物質への代替に取り組めます。

⑦化学物質管理の徹底

法的規制を順守し、管理します。

2. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境経営方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境経営活動の定着、向上に努めます。また、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加して行きます。また、環境経営方針と環境関連情報をホームページに公表します。

更新履歴

1998年8月1日 制定
2009年12月16日更新
2010年2月16日 改定
2010年11月10日改訂
2013年3月5日改訂
2014年3月12日改訂
2020年3月4日改訂
2021年2月26日改訂

2021年2月26日

東邦化成株式会社

代表取締役 磯部 進

4. 環境目標の設定と実績

目 標		基準年実績	2019.1～12			2020.1～12			2021.1～12	2022.1～12	2023.1～12	2024.1～12
		2008.1～12	目標11年目	実績	評価	目標12年目	実績	評価	目標13年目	目標14年目	目標15年目	目標16年目
二酸化炭素排出量	電力エネルギー量の削減	実績値	48%減	47.2%減	×	48%減	48.9%減	○	48%減	48%減	48%減	48%減
	花梨ビル	—	14858.2	15,101.0		14858.2	14,508.0		14858.2	14274.7	14274.7	14274.7
	旧ビル	—	1395.2	1,367.0		1395.2	1,418.0		1395.2	1395.2	1395.2	1395.2
	kWh/年 (Kg-CO2/年)	31,160 (13,243.0)	16,203.2 (7,541.8)	16,468.0 (7,665.0)		16,203.2 (7,541.8)	15,926.0 (7,438.9)		16,203.2 (7,541.8)	16,203.2 (7,541.8)	16,203.2 (7,541.8)	16,203.2 (7,541.8)
	化石燃料(ガソリン)使用量の削減	実績値	25%減	26.3%減	○	27%減	24.7%減	×	27%減	28%減	28%減	28%減
	L/年 (Kg-CO2/年)	25,490.6 (59,180.5)	19,118.0 (44,385.5)	18,782.5 (43,606.5)		18,608.1 (43,201.7)	19,206.6 (44,560.0)		18,608.1 (43,201.7)	18,353.2 (42,609.9)	18,353.2 (42,609.9)	18,353.2 (42,609.9)
	化石燃料(都市ガス)使用量の削減	実績値	97.3%減	97.3%減	○	97.3%減	97.9%減	○	97.3%減	97.3%減	97.3%減	97.3%減
	Nm ³ /年 (Kg-CO2/年)	748.0 (1,577.1)	20.0 (42.2)	20.0 (42.2)		20.0 (42.2)	16.0 (34.6)		20.0 (42.2)	20.0 (42.2)	20.0 (42.2)	20.0 (42.2)
	合 計 (Kg-CO2/年)	74,000.61	51,969.5 29.77%減	51,313.7 30.66%減	○	50,785.7 31.37%減	52,033.5 29.69%減	×	50,785.7 31.37%減	50,193.9 32.17%減	50,193.9 32.17%減	50,193.9 32.17%減
	排出量廃棄物	可燃性ゴミの削減	450.0	58.0%減	×	56.0%減	60.24%減	○	57.0%減	58.0%減	59.0%減	59.0%減
	Kg	450.0	189.0	193.8		198.0	178.9		193.5	189.0	184.5	184.5
総排水量	上水の使用量削減	実績値	21.88%減	27.50%減	○	27.50%減	23.75%減	×	27.50%減	28.00%減	28.00%減	28.00%減
	M ³	160.00	125.00	116.00		116.00	123.00		116.00	115.20	115.20	115.20
化学物質貯蔵量	化学物質貯蔵量の削減と 管理の徹底	2009年度版に 移行後設定の 為、80.10Kgを基 準値とする	50.06%減	74.21%減	○	74.41%減	50.84%減	×	74.41%減	74.41%減	74.41%減	74.41%減
	Kg		40.00	20.66		20.50	39.38		20.50	20.50	20.50	20.50
グリーン購入の推進	グリーン購入品目数	実績値	27	21	×	23	29	○	25	27	29	29
環境性能向上と サービス改善	生産・販売・提供する商品の 環境性能向上とサービスの改 善件数	設定無	105	100	×	105	172	○	108	110	115	115

*購入電力の排出係数は、平成19年度の東京電力二酸化炭素排出係数0.425(kg-CO2/kWh)を用いた。

*平成27年の購入電力の排出係数は、平成25年度の東京電力二酸化炭素排出係数0.530(kg-CO2/kWh)を用いた。

*平成28年以降の購入電力の排出係数は、平成26年度の東京電力二酸化炭素排出係数0.505(kg-CO2/kWh)を用いた。

*2019年以降の購入電力の排出係数は、花梨ビルが平成28年度東京電力エナジーパートナーズ調整後排出係数0.474(kg-CO2/kWh)、旧ビルは平成29年度東京ガス調整後排出係数0.371kg-CO2/kWh)を用いた。

*2020年2月7日にガソリン使用量の12年目以降の目標値を上方修正した。

*2020年2月7日に総排水量の12年目以降の目標値を上方修正した。

*2020年2月7日に化学物質貯蔵量の12年目以降の目標値を上方修正した。

*2020年2月7日にグリーン購入品目数の12年目以降の目標値を下方修正した。

*2020年2月7日に環境配慮型商品の販売品目数の12年目以降の目標値を下方修正した。

*○; 目標達成、 ×; 目標未達

5. 環境活動計画と取組実績 その2

	環境目標	実施事項	担当部署 責任者・担当者	2020年												1年間 集計
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
二酸化炭素の排出量	電力エネルギー量の削減 基準年比48%減	倉庫での不要な照明の電源OFF	業務部: 実施													
		事務所不在時の消灯	業務部: 実施													
		エアコンの過温化の徹底	業務部: 実施													
		パソコンの未使用時電力削減	業務部: 実施													
		実績の把握と評価														
	化石燃料(ガソリン)使用量の削減 基準年比27%減	エコドライブの励行	営業部: 実施													
		社内便の効率化推進	営業部: 実施													
		車両点検整備	営業部: 実施													
		実績の把握と評価														
		目標値		1,510.0	1,320.0	1,250.0	1,035.0	1,000.0	1,100.0	1,250.0	1,400.0	1,350.0	1,160.0	1,145.0	1,338.2	14,858.2
二酸化炭素の排出量	化石燃料(都市ガス)使用量の削減 基準年比97.3%減	ガス機器の省エネ運転推進	業務部: 実施													
		ガス床暖房の不使用	業務部: 実施													
		目標値		4.0	5.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	20.0
		実績値		4.0	5.0	4.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0
		評価		○	○	×	○	×	○	×	○	×	○	○	○	○
	合計 (kg-CO2)	目標値		3,999.03	4,050.86	4,006.30	3,898.31	3,877.51	4,300.08	4,583.84	4,654.94	4,507.74	4,262.36	4,250.16	4,394.50	50,785.63
		実績値		3,997.29	4,041.61	5,240.25	4,255.54	3,548.04	5,071.11	4,736.46	4,398.70	4,651.49	4,342.65	3,789.86	3,955.49	52,028.50
		評価		○	○	×	×	○	×	×	○	×	×	○	○	×
	廃棄物の削減 基準年比56%減	廃棄物の分別推進	業務部: 実施													
		廃棄物量の削減と計測実施	本社: 実施													
		実績の把握と評価														
		目標値		15.0	16.0	17.0	17.0	16.0	17.0	16.0	18.0	15.0	17.0	16.0	18.0	198.0
		実績値		14.7	15.9	17.3	16.1	11.6	15.6	19.8	14.1	18.2	12.8	9.9	12.9	178.9
総排水量	上水使用量の削減 基準年比27.5%減	散水時の節水	業務部: 実施													
		手洗い時の節水	全社: 実施													
		実績の把握と評価														
		目標値		19.0	0.0	19.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	19.0	0.0	19.0	0.0	116.0
		実績値		20.0	0.0	21.0	0.0	19.0	0.0	22.0	0.0	19.0	0.0	22.0	0.0	123.0
	化学物質貯蔵量の削減 基準年比74.41%減 月平均で達成	営業時、直送の検討	営業部: 実施													
		受注時、直送の検討	業務部: 実施													
		実績の把握と評価														
		目標値		20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00	23.00	23.00	20.50
		実績値		56.70	37.80	46.20	29.40	37.80	27.30	37.80	65.10	37.80	10.50	29.40	56.70	39.38
グリーン購入の推進	購入可能環境配慮商品の調査 購入環境配慮商品のリスト見直し 環境配慮製品の購入 実績の把握と評価	目標値		2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	23
		実績値		4	4	2	2	2	1	3	1	3	4	1	2	29
		評価		○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	×	○	○
	生産・販売・提供する商品の環境 性能の向上及びサービスの改善 商品の環境性能向上 サービスの改善 実施件数の合計105件 実績の把握と評価	目標値		8	9	9	9	9	9	8	8	9	9	9	9	105
		実績値		7	13	7	11	10	24	17	15	20	23	10	15	172
		評価		×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	化学物質管理の徹底(維持管理項目)	毒物劇物の販売管理	全社: 実施													
		消防法危険物の数量管理	全社: 実施													
		毒物劇物、消防法危険物の保管管理	全社: 実施													
		評価		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

6. 環境活動計画に基づき実施した取組内容

環境活動計画			取組内容
環境目標	取り組み項目		
1. CO2の削減	① 電力エネルギーの削減	・倉庫不要照明の消灯 ・事務所不要照明の消灯 ・エアコンの温度管理の徹底 ・パソコンの未使用時の電力削減	倉庫及び事務所の不要照明の消灯は、スイッチの近くに不使用時消灯の掲示をし、昼休みの消灯は係を決めて毎日チェックを行った。継続的な取り組みを実施できた。 エアコンの温度管理は、温度計を設置し、温度管理担当者を決め温度管理は徹底できた。しかし、猛暑でエアコンの電力が増加した。 パソコンはセーブモード設定を行い不使用時は使用エネモードになるようにした上、昼休みの休止、終業時の停止を行った。また、クラウド化により、サーバーは停止できた。
	② ガソリン消費量の削減	・エコドライブの徹底 ・社内便の効率化推進 ・エコカーの配備	自動車運転をするドライバーにはエコドライブの教育をし、個別の車についてはガソリン使用量と燃費のチェックを行いエコドライブの徹底をはかった。 コロナ禍における緊急事態宣言中は全社員の送迎を行った。宣言明け以降も車での通勤比率を高めた為、ガソリン使用量も増え、公共交通機関利用は減少した。 社内便の効率化推進は、できるだけ纏めて配送、ルートの見直し、直送を増やすなどに努めた。 エコカーを更に2台増やし、ガソリン使用量の削減につなげた。
	③ 都市ガス消費量の削減	・ガス機器の省エネ運転 ・床暖房の使用停止	ガス機器は、電気湯沸かし器を利用し、余分のお湯を沸かさない、火加減を調整する等の省エネ運転で、消費量の削減につなげた。 床暖房は、停止した。
2. 可燃性ゴミの削減		・廃棄物分別の徹底 ・廃棄物量の削減と計測実施	廃棄分別の仕方を掲示し、分別の責任者を決め、分別を徹底して行った。 廃棄物排出量を計測して削減に取り組み、コロナ禍の為、弁当等のごみの増加傾向にあったが、削減目標を下方修正した為、達成できた。
3. 上水使用量の削減		・散水時の節水 ・手洗い時の節水	植木の水遣り頻度を調整して節水に努めた。 流しには節水の掲示をしているが、コロナ禍の為、手がキッチンと洗えるように流量は増やしたため、目標を未達となった。
4. 化学物質貯蔵量の削減		・営業時、受注時に直送の検討 ・在庫量の維持管理の徹底	営業打ち合わせ時、受注時にはできるだけ直送するようにしてもらっている。また、PRTR 対象品の削減、在庫量は管理が徹底できず、削減目標は未達となった。
5. グリーン購入の推進		・購入可能環境配慮商品の調査 ・環境配慮製品のリスト見直し ・環境配慮製品の購入	文房具及び日用品雑貨等でグリーン購入を推進している。カタログを新しくし購入可能環境配慮商品の調査や環境配慮製品のリスト見直しは行った為、目標を達成できた。
6. 生産・販売・提供する商品の環境性能の向上及びサービスの改善		・環境配慮型商品の開発 ・環境配慮型商品の調査 ・環境配慮型商品の販売件数	顧客のニーズを営業時に把握し、メーカーと打ち合わせで協力し、テープ類や消火器の代替品と溶剤類等の新商品の開発を行い、販売した結果、大幅に達成した。

7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組計画

環境目標		取り組み項目	取 組		
			結果	評価	次年度の取組計画
1. CO2 の削減	① 電力エ ネルギ ーの削 減	倉庫不要照明の消灯	継続的な取り組みにより実施できた。	○	継続して取り組む。
		事務所不要照明の消灯	業務部を中心に実施できた。	○	継続して取り組む。
		エアコンの温度管理の徹底	温度管理は徹底できた。	○	継続して取り組む。 室内温度計でチェックしON/OFFする。
		パソコンの 未使用時の電力削減	昼休みの休止、クラウド化によるサーバー停止ができた。	○	継続して取り組む。
	② ガソリ ン消費 量の削 減	エコドライブの徹底	エコドライブを徹底した。	○	ルートの見直し、忘れ物を無くす。アイドリングストップの徹底を継続して取り組む。
		社内便の効率化推進	効率化を推進した。	○	継続して取り組む。
		エコカーの配備	エコカーの配備により削減できた。	○	継続して取り組む。
	③ 都市ガ ス消費 量の削 減	ガス機器の省エネ運転	省エネ運転は実施した。	○	余分な給湯を沸かさない取り組みを継続する。
		床暖房の使用停止	消費量を抑制できた。	○	床暖房の使用を止める。
2. 可燃性ゴミ の削減		廃棄物分別の徹底	分別が徹底できた。	○	紙のリサイクルを徹底する。更に分別強化。
		廃棄物量の削減と計測実施	削減目標は達成できたが、削減の取組と計測は実施した。	○	コンビニゴミ、出前ごみは増加傾向にあるため、取組みを徹底する。
3. 上水使用量 の削減		散水時の節水	植木の水遣り頻度を調整できた。	○	継続。
		手洗い時の節水	流量を増やした。	○	増やした中で節水を継続。
4. 化学物質 貯蔵量の削減		営業時、受注時に直送の検討	営業時可能な限り直送を依頼。	○	管理の徹底。 直送継続 PRTR対象品の削減に取組む。
		在庫量の維持管理の徹底	管理不徹底。削減目標未達。	×	
5. グリーン購入 の推進		購入可能環境配慮商品の調査 環境配慮製品のリスト見直し 環境配慮製品の購入	取組は行った。 目標は達成。	○	目標を常に意識した発注をする。取組も目標も継続。
6. 生産・販売・提供する商品の環境性能の向上及びサービスの改善		環境配慮型商品の開発 環境配慮型商品の調査 環境配慮型商品の販売件数	代替品と新商品の開発と販売ができた為、大幅に達成した。。	○	日頃から、代替品の開発と販売推進に継続して取り組む。

評価 ○：予定通り取組実施 ×：取組不十分

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反・訴訟はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去5年間以上ありません。

環境関係法規等遵守状況

区分	法規制名	内容	担当部門	遵守状況
廃棄物	東京都台東区条例 廃棄物の処理及び清掃に関する条例	ゴミの分別収集。	業務部 営業部	収集日、分別は守られている。
産業廃棄物	廃棄物処理及び清掃に関する法律	契約確認。マニフェスト運用。	業務部	産業廃棄物の排出無し。
PRTR法	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	GHSへ対応したSDS制度に基づき、指定化学物質のSDS(安全データシート)の提供。(平成24年4月に「指定化学物質等の性状及び取扱いに関する情報の提供の方法等を定める省令」改正)	営業部	SDS受領書の運用はできている。 非該当製品の開発。
毒物・劇物	毒物及び劇物取締法	適正な取扱。 譲渡管理。 紛失盗難防止。	業務部 営業部	鍵の掛け忘れ無し。譲受書の保管はされている。
危険物	消防法	危険物の貯蔵管理。取扱者の講習期限の管理。	業務部 営業部	種類別貯蔵量は守られている。
関連物質 化審法	化学物質の審査及製造等の規制に関する法律(化審法)	製造・輸入使用等について必要な規制を行う。	営業部	管理を遵守、代替品への取り組み。
オゾン層 破壊物質	オゾン層保護法	特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律。	営業部	非規制製品開発の取り組み。
安 全	労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)	有機溶剤中毒を防止することを目的とした省令。	営業部	適正な使用の指導及び安全な取り扱いの遵守。
その他 1	環境負荷禁止物質不使用の要望	法規制による使用禁物質や通達により使用廃止を連絡している物質の即時使用禁止。	営業部	不使用証明の提出に協力。
その他 2	RoHS規制	10物質の使用禁止。 (水銀、鉛、六価クロム、カドミウム、PBB、PBDE、DEHP、BBP、DBP、DIBP)	営業部	不使用証明の提出に協力。
その他 3	地球温暖化防止対策	地球温暖化係数のある物質の製造使用抑制。	営業部	代替製品開発に取り組む。
資源循環	特定家電用機器再商品化法(家電リサイクル法)	特定家電機器を長時間使用、廃棄物として排出の場合は適切に引渡し料金を支払い、テレビ・液晶・冷蔵庫に適用。	業務部	廃棄の場合、適切な業者を選定し、処理。
	使用自動車再資源化等に関する法律	自社使用済自動車をリサイクル法に基づいて、引き取り業者に引き渡す。再資源化費用預託。	営業部	引取り時に預託証明書を添付。
大気汚染	フロン排出抑制法	①フロン使用業務用空調機器の点検・整備。 ②フロン使用業務用空調機器の廃棄時フロン類の引渡等。	業務部	①簡易点検実施、記録を廃棄まで保管 ②フロン使用業務用空調機器の廃棄はなし

※RoHS規制は2019年7月22日よりDEHP(フタル酸ジニエチルヘキシル)、BBP(フタル酸ブチルベンジル)、DBP(フタル酸ジブチル)、DIBP(フタル酸ジイソブチル)が追加。

代表者による全体の評価と見直し 結果報告書

見直し実施日	2021年1月18日 (☒ 定期見直し ☐ 臨時見直し)		
見直し対象期間	2020年1月1日 ~ 2020年12月31日		
出席者	代表者、環境管理責任者、事務局		
前回の指示への取組結果	前回の指示事項: 温調はエアコンのみ使用すること。 取組: 節電は目標を0.9%多く達成した。		
見直しに必要な情報	①環境関連法規の遵守状況 ②環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況 ③問題点の是正処置及び予防処置の結果 ④外部からの環境に関する苦情等の受付結果 ⑤その他		
代表者による 評価 経営的観点	【環境経営システムが有効に機能しているか】(①、③、④、⑤等を踏まえて評価) 環境経営システムは有効に機能している。		
	【環境への取組が適切に実施されているか】(②等を踏まえて評価)		
	目標項目	目標達成状況	活動計画実施状況
	CO2排出量の削減	×	×
	可燃性ゴミ排出量の削減	○	○
	上水使用量の削減	×	×
	化学物質貯蔵量の削減	×	×
	グリーン購入の推進	○	○
代表者による 見直し 変更の必要性の有無・変更に必要な具体的指示事項	目標・活動計画実施状況の評価		
	目標設定方法: 電力、都市ガスとも達成したが、ガソリンのみ未達。取組方法: 節電、化石燃料の削減(ガソリンはコロナ禍のもと、車通勤が増えたが、エコドライブの徹底とエコカーの導入で対応する)。次年度の方針: 電力、ガソリン、都市ガスとも継続。目標値は継続設定。		
	目標設定方法: 目標を下方修正し、達成。取組方法: 分別の徹底。次年度の方針: 継続、目標値も継続。		
	目標設定方法: 目標を継続したが未達。コロナ禍のもと、水量を増やし洗浄した為、消費量は増えた。取組方法: 節水の徹底。次年度の方針: 目標値とも継続。		
	目標設定方法: 貯蔵量の平均値とし、今年度は管理不足により目標は未達成。取組方法は継続。次年度の方針: 目標も継続し、ユーザーの意向に添いながら、削減に取り組む。		
	目標設定方法: 目標値を下方修正した為、達成。取組方法: 新たな品目を追加できるようにカタログを調査。発注時に再度目標もチェックする。次年度の方針: 目標値を継続とする。		
	目標設定方法: 目標を下方修正したが、大幅に達成。取組方法: 開発及び販売を強化した。次年度の方針: 代替品の開発と販売推進に取り組む。目標値は継続とする。		
	環境性能向上とサービスの改善		
代表者による 見直し 変更の必要性の有無・変更に必要な具体的指示事項	【環境方針】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無 2017年度版を継続		
	【環境経営体制】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無 十分に機能していると考え。		
	【環境目標及び環境活動計画】 変更の必要性 : ☒ 有 ☐ 無 CO2排出量の内、ガソリン使用量は、コロナ禍で緊急事態宣言中、従業員の送迎をしたり、社用車での通勤が増えた為、エコカー導入に依る削減が効かず、未達成。電気使用量は小まめな温度管理により、目標を達成した。可燃性ゴミは減少に成功し、目標を継続とした。上水使用量については削減できなかったが、目標は継続とした。化学物質貯蔵量については、管理を徹底することで、目標は継続。グリーン購入、環境配慮型商品の販売件数については目標は継続する。		
	【環境経営システム等】 変更の必要性 : ☐ 有 ☒ 無 十分に機能していると考え。		
	【総括】(環境活動レポートに転記) 電力・都市ガスとも過去に相当削減して来たが、夏期の気温上昇に対応する必要が出て来ている。しかし、コロナ禍の為、ガソリン使用量が増え、二酸化炭素排出量は増加してしまっただが、削減目標は継続とした。電力、ガス、総排水量については限界が近づきつつあると感じるが、再挑戦する。次年度もグリーン購入と環境性能の向上とサービスの改善に力を入れたい。		

- 注) ①定期的(少なくとも毎年1回)に実施すること。登録審査の場合は、臨時に行うこと。
 ②事業年度が終了したら、速やかに終了事業年度(登録審査の場合は登録の運用期間)の見直しをすること。
 ③事業内容の変更や重大な事故・不適合が生じた場合等の時は、臨時の見直しをすること。
 ②事業年度が終了したら、速やかに終了事業年度(登録審査の場合は登録の運用期間)の見直しをすること。
 ③事業内容の変更や重大な事故・不適合が生じた場合等の時は、臨時の見直しをすること。